

## 第2章 朝霞市の図書館サービスの現状と課題

### 1. 図書館の利用状況

近年の図書館の利用は、利用者数、貸出数ともに緩やかな減少傾向が続いています。令和2年度は、新型コロナウイルスの感染が拡大し、日常生活の行動制限が行われました。市の「新型コロナウイルス対策本部」の決定により感染拡大防止のため、図書館においても4月2日から約2か月の休館を経て、6月1日から全面的に業務を再開しました。開館後も館内滞在時間の制限、座席等の間引きを行い、引き続き感染拡大防止に努めました。

また、令和3年度には、本館の大規模改修工事（9月から2月まで実施）による長期休館があり、これらが2か年度にわたる利用減少の大きな原因となっています。

工事終了後の令和4年度以降は、いわゆるコロナ禍の巣ごもり需要で利用が回復しましたが、コロナ禍前の水準には届かず、現在に至っています。

#### ○ 利用状況（個人）

年度	利用者数 (人)	貸出					総貸出 点数
		一般書	児童書	雑誌	紙芝居	視聴覚資料	
令和元年	262,018	476,210	301,293	40,439	7,854	29,869	855,665
令和2年	205,246	367,862	250,977	33,377	5,356	20,860	678,432
令和3年	225,774	378,878	284,494	32,283	7,062	18,417	721,134
令和4年	258,133	430,901	324,411	32,636	6,588	23,875	818,411
令和5年	251,723	417,319	309,464	29,808	5,874	22,620	785,085
令和6年	248,290	411,134	297,662	26,284	5,256	21,247	761,583

#### ○ 令和6年度の各施設利用状況（個人）

施設名	利用者数 (人)	貸出					総貸出 点数
		一般書	児童書	雑誌	紙芝居	視聴覚資料	
図書館(本館)	161,510	256,417	183,276	14,132	3,310	15,542	472,677
北朝霞分館	62,719	119,619	79,553	9,590	1,450	5,051	215,263
図書館	224,229	376,036	262,829	23,722	4,760	20,593	687,940
東朝霞公民館	6,977	8,614	14,283	601	185	139	23,822
西朝霞公民館	4,465	6,850	6,872	641	113	166	14,642
南朝霞公民館	3,486	5,722	3,746	244	44	27	9,783
北朝霞公民館	7,339	11,294	7,219	881	108	295	19,797
内間木公民館	1,794	2,618	2,713	195	46	27	5,599
公民館内図書室	24,061	35,098	34,833	2,562	496	654	73,643
合計	248,290	411,134	297,662	26,284	5,256	21,247	761,583

○ 年間利用統計（施設別・個人）

区分	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
		前年対比		前年対比		前年対比		前年対比	
本館	貸出点数	337,392点	79.2%	494,533点	146.6%	488,750点	98.8%	472,677点	96.7%
	返却点数	283,940点	76.8%	416,390点	146.6%	408,933点	98.2%	393,492点	96.2%
	利用者数	119,399人	90.5%	163,375人	136.8%	163,443人	100.0%	161,510人	98.8%
	新規登録者数	1,778人	100.3%	2,613人	147.0%	2,461人	94.2%	2,372人	96.4%
	予約点数	167,736点	111.9%	161,481点	96.3%	158,205点	98.0%	158,530点	100.2%
	1人当たり貸出点数	2.8点	87.5%	3.0点	107.1%	3.0点	100.0%	2.9点	96.7%
分館	貸出点数	278,070点	152.1%	227,995点	82.0%	214,297点	94.0%	215,263点	100.5%
	返却点数	263,794点	145.8%	227,376点	86.2%	214,189点	94.2%	211,841点	98.9%
	利用者数	74,151人	145.6%	64,028人	86.3%	60,959人	95.2%	62,719人	102.9%
	新規登録者数	944人	141.7%	812人	86.0%	791人	97.4%	747人	94.4%
	予約点数	12,716点	148.1%	9,964点	78.4%	8,883点	89.2%	9,078点	102.2%
	1人当たり貸出点数	3.8点	105.6%	3.6点	94.7%	3.5点	97.2%	3.4点	97.1%
公民館	貸出点数	105,672点	151.5%	95,883点	90.7%	82,038点	85.6%	73,643点	89.8%
	返却点数	122,827点	137.5%	118,741点	96.7%	105,202点	88.6%	99,254点	94.3%
	利用者数	32,224人	143.9%	30,730人	95.4%	27,321人	88.9%	24,061人	88.1%
	新規登録者数	271人	171.5%	246人	90.8%	173人	70.3%	157人	90.8%
	予約点数	2,962点	125.1%	2,462点	83.1%	2,440点	99.1%	2,117点	86.8%
	1人当たり貸出点数	3.3点	106.5%	3.1点	93.9%	3.0点	96.8%	3.1点	103.3%
合計	貸出点数	721,134点	106.3%	818,411点	113.5%	785,085点	95.9%	761,583点	97.0%
	返却点数	670,561点	104.8%	762,507点	113.7%	728,324点	95.5%	704,587点	96.7%
	利用者数	225,774人	110.0%	258,133人	114.3%	251,723人	97.5%	248,290人	98.6%
	新規登録者数	2,993人	115.3%	3,671人	122.7%	3,425人	93.3%	3,276人	95.6%
	予約点数	183,414点	114.1%	173,907点	94.8%	169,528点	97.5%	169,725点	100.1%
	1人当たり貸出点数	3.2点	97.0%	3.2点	100.0%	3.1点	96.9%	3.1点	100.0%

※WEBでの貸出、貸出者数、予約については、本館に計上。

## 2. 図書館における蔵書の推移

図書館の蔵書は、約55万冊前後で推移しています。このことは、各館とも収蔵スペースに余裕がないことを示しています。このため、引き続き適切な選書と収集を行う一方で、慎重に除籍を進め、適正な蔵書管理を行う必要があります。

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
図書館 (本館)	一般書	227,906	228,765	230,479	231,757	232,663
	児童資料	102,097	100,335	101,932	102,695	101,824
	図書合計	330,003	329,100	332,411	334,452	334,487
	紙芝居	2,147	2,163	2,162	2,208	2,201
	雑誌	11,782	12,487	12,397	15,428	15,037
	視聴覚資料	8,475	8,684	8,119	8,276	7,934
	合計	352,407	352,434	355,089	360,364	359,659
北朝霞 分館	一般書	85,738	86,375	88,165	88,744	87,973
	児童資料	26,800	27,832	27,887	28,031	28,476
	図書合計	112,538	114,207	116,052	116,775	116,449
	紙芝居	915	927	928	928	929
	雑誌	2,350	2,395	2,329	1,754	2,972
	視聴覚資料	3,419	3,509	3,528	3,581	3,588
	合計	119,222	121,038	122,837	123,038	123,938
公民館 図書室計	一般書	38,103	38,677	37,729	38,075	37,828
	児童資料	32,535	34,109	33,309	33,354	33,171
	図書合計	70,638	72,786	71,038	71,429	70,999
	紙芝居	1,498	1,482	1,486	1,482	1,487
	雑誌	1,181	1,297	1,144	923	915
	視聴覚資料	-	-	-	-	-
	合計	73,317	75,565	73,668	73,834	73,401
総計	一般書	351,747	353,817	356,373	358,576	358,464
	児童資料	161,432	162,276	163,128	164,080	163,471
	図書合計	513,179	516,093	519,501	522,656	521,935
	紙芝居	4,560	4,572	4,576	4,618	4,617
	雑誌	15,313	16,179	15,870	18,105	18,924
	視聴覚資料	11,894	12,193	11,647	11,857	11,522
	合計	544,946	549,037	551,594	557,236	556,998

### 3. 第3次朝霞市立図書館サービス基本計画の成果と課題について

#### 1) 計画的な資料収集と蔵書構成の充実

##### 【主な成果】

- 「朝霞市立図書館資料収集方針」に基づき、社会状況や利用者の希望を踏まえた資料の収集に努めるとともに、市民の教養、調査・研究に資する資料の計画的な収集、保存、提供を行うことができました。
- 資料の適切な保存ができるよう配慮するとともに、収蔵スペースの適切な管理・確保や図書館総合情報システムを有効に活用し、必要な資料がいつでも、誰でも利用できるよう努めることができました。
- 視聴覚資料については、利用状況の変化を踏まえ、音声資料や映像資料の計画的な収集・保存に努めるとともに、映画会など図書館事業に活用しました。
- 市の郷土資料や行政資料、地域資料については、積極的に収集、整備し、市民の学習や調査・研究活動等、情報提供することができました。
- 読書バリアフリー法を踏まえ、さまざまな理由で通常の書籍の利用が困難な方々が、本の内容にアクセスできるよう、点字図書・録音図書・布絵本・大活字本、LLブックの収集・保存に努めました。また、令和4年3月1日から電子図書館サービスの運用を開始し、来館せず、いつでも、どこでも、誰でも利用できる読書環境を整えました。
- 多文化共生を踏まえ、外国語資料の収集・保存に努めました。

##### 【主な課題】

- 利用者数、貸出点数とも緩やかな減少傾向にあります。ＩＣＴの発達と高度化により、人や社会の価値観が大きく変化する中で、図書館を利用するきっかけづくりや魅力ある蔵書構成、より多様な読書活動情報の提供を積極的にしていくことが必要です。
- 電子図書館の普及、利用促進が課題となっています。
- 地域・行政資料の一部について、デジタル化が課題となっています。
- 視聴覚資料については、視聴方法の主流が、これまでのパッケージ（媒体）からイ

インターネット配信となり、今やパッケージの存在そのものが危ぶまれるなど著しく変化しています。これらの変化に対応した利用環境の整備、資料収集について研究・検討するとともに、これまでに収集した資料の提供、保存について検討する必要があります。

指 標	蔵書点数（単位：点）						
指標説明	適正な蔵書管理による図書館（本館・分館、公民館図書室）全館の蔵書数（雑誌、視聴覚資料、紙芝居は除く。）						
設定根拠	継続的に図書購入費が予算措置されることを前提として、蔵書目標値を設定。						
	現状 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目 標			515,000	517,500	520,000	522,250	525,000
実 績	515,122	513,179	516,093	519,501	522,656	521,935	
評 価	A：サービスの充実が図られている						

## 2) 資料・情報提供サービスの充実

### 【主な成果】

- 「朝霞市立図書館資料収集方針」に基づき、利用者の課題解決に役立つ資料の他、新刊図書・雑誌・新聞・視聴覚資料等の収集・提供をすることができました。また、未所蔵の資料のリクエストについては、購入や県内公共図書館等から借受することで、適切に提供することができたほか、必要に応じて大学図書館等を紹介しました。
- 図書館総合情報システムの適切な管理・運用により、安定的に図書館運営及び利用者サービス運用をすることができました。
- 令和4年3月1日から、電子図書館サービスの運用を開始したことにより新たに電子図書による読書環境を整備しました。
- 所蔵調査、読書相談や情報調査を行うレファレンスサービス（＊1）については、利用者の求めに応じ、適切に対応することができました。
- ユニバーサルデザインやアクセシビリティに配慮しながら、広報や市のホームページ、図書館ホームページの充実を図り、わかりやすい情報発信に努めました。

## 【主な課題】

- これまでのレファレンス記録の整理、活用を図り、利用者が容易に調査・学習できるよう、パスファインダー（＊2）やリンク集などの作成が必要です。
- 多様化する利用者のニーズに迅速かつ的確に支援、対応していくため、専門的知識や技術を有する職員を配置するとともに、職員のレファレンス能力の向上や専門知識を獲得させていく必要があります。
- 図書館利用につながる、よりわかりやすく、関心を引く、迅速な情報発信に努める必要があります。
- 社会環境・出版環境の変化への対応を図り、読書バリアフリーにも有効である電子書籍のコンテンツの維持と適切な選書を行う必要があります。ただし、電子図書館サービス用コンテンツは、通常の図書と違い、電子書籍そのものを市で所有できない（＝毎年、読む権利を購入する）ため、安定したコンテンツの維持管理には安定的な財源の確保が必要です。

指 標	レファレンス件数（単位：件）						
指標説明	利用者の相談に応じて、必要とする資料や情報を提供し、学習や調査・研究の支援について、職員が対応した件数						
設定根拠	令和元年度実績を踏まえ、継続的にレファレンスが実施されるとともに、目標年度まで2%増を見込み設定。						
	現状 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目 標			572	574	576	578	580
実 績	569	132	197	497	373	439	
評 価	B：サービスの現状維持が保たれている						

\*1:レファレンスサービス

資料・情報を求める利用者に対して提供される、文献の紹介・提供などの援助。

\*2:パスファインダー

利用者が求めているトピックやテーマに対して、各種情報資源や探索方法を紹介する資料。

### 3)多様な利用者に応じた図書館サービスの充実

#### 【主な成果】

- 乳幼児期の「ブックスタート」、「赤ちゃんとママ・パパのおはなしタイム」、「うさみみタイム」や各種おはなし会、「児童文化講座」などの事業の他、「この本よんだ」などのブックリストの作成・配布など、「子ども読書推進計画」に基づき、子どもだけでなく、子どもに関わる大人にも向けて、子どもの読書活動の推進を図りました。
- 「小中学校図書館貸出し」制度を策定し、学校にない本について学校図書館を通じて、希望する児童・生徒に提供することができました。
- 高校生・大学生相当年齢の利用者に対し、青少年講座などの事業や展示を行い、魅力あるコーナーづくり等をとおして、サービスの充実に努めてきました。
- 子ども読書活動推進連絡会をとおして、市内の児童館、小・中学校図書館や子ども関係団体等と連携や協力を深め、情報交換するなど、子どもの読書活動の中心的な機関として子ども読書活動を推進しました。
- 利用者のニーズを踏まえ、幅広いニーズに対応した多様な学習資料や情報を収集し、積極的に提供し、市民の生涯学習活動を支援することができました。
- 多用なテーマの展示、イベントなどを通じて、読書の提案、資料や情報を提供することができました。
- 障害のある人、高齢の人、乳幼児等、誰もが利用しやすいよう、令和3年に実施した本館の改修工事で、多目的トイレや授乳室、正面玄関に誘導鈴を設置し、施設のバリアフリー化を推進しました。
- デイジー図書（＊3）、点字資料・録音資料、大活字本やＬＬブック等の充実とそれに付随する機器類の整備、資料の宅配サービスや対面朗読、電子書籍の提供を行い、読書に障害のある人の読書環境の整備を進めました。
- 日本語を読むことが困難な方に対応した外国語資料の収集・充実に努めました。

## 【主な課題】

- 読書活動や図書館利用の推進のため、引き続き、計画的な資料収集と蔵書構成の充実を図るとともに、子どもから高齢者まで様々な世代に向け、多様なテーマによる図書の展示やイベントの開催など、より積極的なアプローチの必要があります。
- I C Tの進展により、従来の紙媒体をとおしての情報収集や娯楽としての読書など活字と親しむ機会が減少する中、電子図書館サービスの充実を図るとともに、適切な維持・管理が重要です。
- 引き続き学校図書館との情報交換を行うとともに、研修や選書等についての支援も行う必要があります。

### \*3:デイジー図書

デイジー(DAISY)とは、Digital Accessible Information System の略で、視覚障害などで活字による読書が困難な方向けに作られたデジタル図書の国際標準規格のこと。デイジー図書はCD形式による提供のほか、インターネット配信による提供も行われている。

指 標①	子ども 1 人当たりの児童書数（単位：点）						
指標説明	15歳までの子ども一人当たりの図書館が所蔵する児童書数						
設定根拠	令和元年度実績を踏まえ、今後の図書購入数、人口推計に基づき、目標値を2%増に見込み設定。						
	現状 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目 標	/	/	7.80	7.85	7.90	7.95	8.00
実 績	7.80	7.82	7.91	8.02	8.12	8.20	/
評 価	A : サービスの充実が図られている						

指 標②	貸出密度（単位：点）						
指標説明	市民一人当たりの貸出点数						
設定根拠	令和元年度実績を踏まえ、人口10万人以上、15万人未満の101市の人口1人当たりの平均貸出点数5.9点を参考として、目標値を設定。						
	現状 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目 標	/	/	6.2	6.4	6.6	6.8	7.0
実 績	6.0	4.73	5.01	5.67	5.39	5.22	/
評 価	B : サービスの現状維持が保たれている						

## 4)図書館の効率的・効果的な運営

### 【主な成果】

- 図書館総合情報システムの整備・充実に努め、図書館資料や情報の的確な管理を行い、省力的・効率的で質の高いサービスの提供に努めることができました。
- ユニバーサルデザインの観点からバリアフリー化を図り、読書や調査・研究、学習の場として、また、居場所として、乳幼児から高齢者、障害者等、誰もが安全で安心して利用しやすい環境づくりに努めました。
- 利用者自身のタブレットやスマートフォンでインターネットに接続し、読書や調査・研究、学習等ができるようWi-Fi環境を維持・整備することで、ICT環境の変化への対応を行いました。
- 伝統のある「図書館まつり」や「らいぶらりコンサート」等、市民参加や協働による地域交流の場を形成しました。
- 近隣3市（志木市・和光市・新座市）との相互利用制度による連携、また「埼玉県内図書館横断検索システム」による県内図書館との相互貸借制度を活用し、相互に利用者の利便性向上、効率的な資料の検索・貸借を行っています。
- 専門資格である司書資格を有する職員を一定数配置することができました。

### 【主な課題】

- ICTの進展に伴い、今後の図書館サービスの充実を図るため、時代に対応した新たな図書館総合情報システムの導入を準備していく必要があります。
- 図書館サービスをより効果的に積極的、安定的に提供するためには、専門知識を持つ司書の継続的な配置が必要です。また、経験豊富な職員からの技能継承や専門知識の向上のため、内部研修の実施、また外部の専門研修や長期間研修に安心して職員が参加できる職場の環境づくりも必要です。

指 標	司書資格保有率（単位：%）						
指標説明	常勤職員総数のうち、司書・司書補資格を有する職員の割合						
設定根拠	令和元年度実績を基本として現状維持していくことを前提として、図書館職員の司書資格保有者を確保・育成していくために設定。						
	現状 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目 標			30.0	35.0	40.0	45.0	50%以上
実 績	30.0	31.6	35.0	65.0	60.0	55.0	
評 価	A：サービスの充実が図られている						